

第 63 回東日本実業団陸上競技選手権大会

【出場結果】

実施日 : 5月15日(土) 1500m 10000m

5月16日(日) 800m 5000m

会場 : 熊谷スポーツ公園文化公園陸上競技場

出場者 : 加藤 平 親崎 達朗 西沢 晃佑 小林 航央 関口 大樹 田中 龍誠

出場種目・出場者・リザルト

5月15日(土)

氏名	加藤	小林	親崎
種目	1500m	1500m	10000m
組	1組目	2組目	1組目
タイム	3'52"60 自己ベスト	3'50"33	30'10"70
順位	2/21	15/19	9/24

5月16日(日)

氏名	親崎	田中	関口	小林
種目	5000m	5000m	5000m	800m
組	1組目	1組目	1組目	3組目
タイム	14'40"80	14'57"61	15'21"69	1'53"86
順位	7/29	17/29	21/29	4/9

※ 西沢は5000mのレース途中で脚の故障により棄権

【レポート】

コロナ禍のため、無観客試合となりましたが、第63回東日本実業団競技選手権大会が熊谷スポーツ公園文化公園陸上競技場で行われました。

秋の東日本実業団駅伝に出場するチームがこぞって出場する大会となるため、現状のチーム状態を把握するには絶好な機会となりました。

5月15日(土)には1500mの2組タイムレースが行われ、1組目に加藤、2組目に小林が出場しました。1組目に出場した加藤は1500mが本職ではないものの、自身のスピード強化のために集団の流れにしっかりと乗り、ラストスパートもしっかりと決まり、3分52秒台の組2着と自己ベストの走りで力のあるところを見せてくれました。続いて2組目に出場した小林は1500mを得意とする選手ですが、故障明けということもあり、様子見の走りとなったものの、序盤からハイペースの集団に喰らいつき、復帰戦としてはまずまずの3分50秒台のゴールとなりました。なお、加藤、小林ともに9月に大阪で開催される全日本実業団対抗陸上競技選手権大会の標準記録を突破し、出場権を獲得することが出来ました。



自己記録を更新する走りを見せた加藤



復帰戦でしっかりと結果を残した小林

続いて10000mの2組タイムレース1組目に出場した親崎は、風が時折強く吹き付ける難しいコンディションの中、序盤から冷静な走りで好位置をキープすると、中盤以降に苦しくなってくる場面でもスピードが衰えず、先頭集団から落ちてくる選手を次々と抜き去り、組で9位の30分10秒台でゴールし、東日本実業団の強豪選手達にも引けを取らない走りを見せてくれました。



タフなレースの中でも冷静な走りを見せた親崎

翌日の5000mは4組タイムレースの1組目に親崎、西沢、関口、田中の4名の選手が出場しました。親崎は前日の10000mとの連戦となり、自己記録更新とはなりませんでしたが、しっかりと力を発揮し14分40秒台でゴールしました。新人の田中は社会人デビュー戦となりましたが、学生時代からの故障の影響もあり本調子ではない中、ラストもしっかりと上げられ、14分57秒台でのゴールで次戦以降の活躍が楽しみな結果となりました。

西沢、関口は中盤以降に失速し、脚の痛みを感じた西沢は4000mで途中棄権、関口は15分21秒台でのゴールとなり課題の残る結果となりました。



連戦でもしっかりと結果を残した親崎



今後を期待させる走りを見せた田中



中盤以降の走りが課題となった西沢、関口

前日の 1500m に続き 800m に出場した小林は、久しぶりの中距離レースとなりましたが、前半から勢いのあるスピードで飛ばし、自己記録（1 分 48 秒 54）には及ばなかったものの、1 分 53 秒台でゴールし、800～10000m までこなすマルチランナーとしての力を発揮してくれました。



スピード感のある走りで 800m を走り切った小林

今回は、2 名の選手が全日本実業団対抗陸上競技選手権大会の切符を獲得しており、チームに勢いを与えてくれる結果となりました。

今後とも皆様の温かいご声援を宜しくお願い致します。